「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における実践研究報告書

大崎市立古川南中学校

Ⅰ　学校所在地域の災害特性及び地域連携に係る現状等

（1）学校所在地の災害特性

① 自然的条件

大崎市立古川南中学校区（右図オレンジ部）は、JR古川駅の西側にあり、古川第三小学校と古川第五小学校の2つの小学校を含む学区である。近くには、渋井川や大江川、名蓋川が流れており、水田が広がってい「穂波」「稲葉」と田園をイメージする地名が多いことから、近年、新興住宅地として変化し、今後も住宅が増える事が予想される。

② 災害特性

平成27年9月「関東・東北豪雨」では、台風第17号・18号の影響から、渋井川が決壊し、3時間で降水量100ミリを記録する豪雨が学区を襲い被災した。また、令和元年10月には、台風19号により、渋井川と名蓋川が決壊、内水浸水で、ふたたび、学区は被災した。当時の雨量は、観測史上最大の3時間で降水量120ミリを記録した。更には、令和4年7月の「大雨」では、大江川が決壊し、48時間の総降水量が259.5ミリ。 3時間の降水量は133.5ミリ、観測史上第 1 位を更新するなど、記録的な雨量であった。

令和27年から9年間で、3回の災害を経験している地域であるため、防災は、これから生活する上でも必要な地区であると考える。

（2）地域連携に係わる現状

① 各官公署の協力

大崎広域消防本部や古川警察署、大崎市社会福祉協議会や自衛隊宮城地方協力本部等の諸機関と連携し、教育活動を行っている。

また、7月には、古川警察署他関係機関との協働で、地下道清掃と通学路清掃を行った。主に、3年生が風の小道の地下道清掃、2年生が稲葉地下道の清掃、1年生は、通学路のゴミ拾いを行った。

更に、10月には、陸上自衛隊第六音楽隊による防災音楽会を行った。東日本大震災の時の自衛隊の活動を映像で振り返りながら聞いた「花は咲く」は感動的だった。

② 南中学区防災連絡協議会

年に2回、南中学校区防災連絡協議会を開催し、大雨時の浸水箇所・危険箇所等の確認を行った。南中学校区防災連絡協議会は、各行政区長、民生・児童委員、大崎市防災安全課危機防災担当課長、稲葉児童センター館長、消防署職員、第三小学校長と防災担当、第五小学校長と防災担当、本校より校長、教頭、主幹教諭（2 名）で構成されている。多くの方からの意見を元に学校の防災体制の取組も共有している。

Ⅱ　取組状況

1　地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

（1）引き渡し訓練の実施（6月）

古川東中学校区と古川南中学校区（2 中学校･4 小学校）合同の引き渡し訓練を行った。震度 6 強の地震を想定し、6 校同時刻に避難訓練を行った後、引き渡し訓練を実施（総勢約 6,000 人が参加）した。本校は、古川第三小学校と古川第五小学校との連携となる。引き渡し訓練では、約80%の家庭が参加した。

引き渡し訓練に保護者が参加できなかった生徒は、「地区生徒会」を活用し、地区担当の教員が引率して集団下校を行った。

（2）大雨に対応する避難訓練（9月）

線状降水帯となった大雨を想定した避難訓練で、垂直避難を実施した。避難訓練の事前学習として、気象庁のeラーニング『「大雨の時にどう逃げる」～避難の基本～』を活用した。

本校の普通教室は、平屋の建物であるため、避難場所は、2階の特別棟と管理棟になる。学年ごとに分かれて避難訓練を行った。また、当日は、東北大学教授、学校防災アドバイザーの佐藤健先生に来校いただき、ご指導をいただいた。

2　地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

（1）総合防災体験学習（10月）

1 年生：「自助」に関する学習 「防災グッズ作り･防災ビンゴゲーム」

講師：大崎市社会福祉協議会

防災グッズ：新聞紙スリッパ･サランラップロープ･コピー紙スプーン･ランタン

2 年生：「共助」に関する学習 「普通救命救急講習」

講師：大崎広域消防本部（消防士17名来校）

※「応急手当WEB 講習」は保健体育で実施（2時間）

3年生：「公助」に関する学習 「自衛隊災害車両見学と土嚢つくり」「南中クロスロード」

講師：自衛隊宮城地方協力本部

講師：わしん倶楽部代表 田中勢子さん

※インフルエンザによる学年閉鎖で実施できなかった（右の写真はイメージ）。

※作った「土嚢」は学校の門に置き、地域の災害時に活用してもらう予定であった。

（2）南中防災クロスロード（6月～9月）

「わしん倶楽部」代表の田中勢子さんにご指導いただいた。南中版防災クロスロードを考える前に、自分たちの住む大崎市の事を学ぶため、学校評議委員の千葉和朗様に、昔から水害が多く悩まされていたという話を聞いた。

その後　田中先生とクロスロードを体験し、実際に問題を考えた。後日生徒全員が作った南中版防災クロスロードを田中先生とクロスロードの著名である慶應義塾大学准教授の吉川肇子先生に見ていただき、水害に特化した「南中版防災クロスロード」が完成した。

（3）「ぼうさいこくたい2023」に参加（9月）

9月に横浜で行われた「ぼうさいこくたい2023」に生徒2名、引率教員2名で参加した。

生徒2人と慶應義塾大学の吉川先生と一緒に「南中版防災クロスロード」を発表し、実際に参加していた方々と「南中防災クロスロード」を行った。

3　教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

（1）防災マニュアルの読み合わせ（4月）

第1回の職員会議で、防災マニュアルの読み合わせを行った。地震、火災、水害、特別教室からの避難経路や安全点検の要点等を確認した。また、防災マニュアルを基に、防災安全部会（防災主任、各学年の代表と主幹教諭、計5名）では、1年間の流れの確認や避難訓練、総合防災学習などの役割分担を行った。

（2）防災安全部の取組（毎月1回・行事ごと）

本校の防災に係わる行事等は、防災安全部が部会を開き、計画を立てている。その計画を学年代表が、学年部会や学年毎朝の打ち合わせ等で説明したり、事前・事後学習を進めたりしている。

（3）教職員研修会の開催

教職員対象の不審者対応研修を8月に行った。古川警察署の小山さんに講師を依頼し、不審者の特徴や対応方法、「さすまた」や「ネットランチャー」「防犯カラーボール」の使い方を指導いただいた。

初めて「さすまた」を手にした若手教職員は、戸惑いながらも、実際のことを想定して取り組んでおり、参加した職員にとってもよい研修となった。

4　被災地訪問等を取り入れた生徒の防災意識を高める防災教育の実施

被災地訪問「防災学習」の実施

① 事前学習（4月）

大崎市在住の防災士、高橋伸実さんに「被災地について」講話をいただいた（高橋さんは一般社団法人「四つ葉」の代表も勤められている方）。

これまで、様々な被災地でボランティア活動をされてきた際の経験談等をお話しいただいた。

② １学年（5月）

「復興遺構荒浜小学校」と「閑上の記憶」に訪問した。2クラスに分かれて、午前と午後にそれぞれ見学を行った。

③ 2学年（5月）

バスに語り部さんが乗車し、被災地を見学するツアーに参加した。

その後、語り部さんとグループディスカッションを行った。

④ 3学年（9月）

石巻震災遺構の大川小学校では、語り部の佐藤敏朗さんから話を聞き、その後門脇小学校の見学を実施した。

Ⅲ　取組を通じた成果と課題

（１）成果

○生徒の各取組の感想や作成した新聞等より、「防災」についての関心が高まったと感じる。

○今後の防災学習も継続できることを意識した計画を立てたことで、３年間のサイクルを見通すことができた。

○地域の方々に、古川南中学校の防災に対する教育内容を知ってもらうことができた。また、地域の方と生徒が繋がるきっかけになったと考える。

○体験や経験は、生徒の意欲につながり、積極的に社会貢献する姿がみられた。

（２）課題

●今年は、地域連携を「官公署」を中心に事業を進めたため、身近に住む地域の方には参加型となってしまった。次年度は、企画段階から地区の住民の方や行政の方との連携を図りたい。

Ⅳ　次年度の取組予定等

・次年度は、地域の防災活動に生徒も参加できる企画をし、更に地域との連携や協働に取り組みやすい体制を計画したい。

・生徒会の委員会活動に「安全委員会」を立ち上げ、防災学習関連の企画や運営等を生徒ができるようにしたい。

・地域の人材発掘に努め、地域の方に「地域の防災」を生徒に指導してもらいたい。